

市長と住民の「こんだん会」  
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～  
里山辺地区開催報告

日時：令和4年8月31日（水） 午後6時30分～8時35分  
場所：里山辺公民館 大会議室  
テーマ：「地域住民の繋がりづくり、助け合いをどう進めるか」  
参加者：30名（市長、団体関係18名、傍聴者9名、公民館長、センター長）  
※参加団体等：町会連合会、まちづくり協議会、つながろう会、山辺  
中学校生徒、さとのわ・わいわいカレー事業参加者、地域自治支援  
交付金交付団体（湯ノ原交流会、里山辺ゲートボール協会、北小松  
防災力向上委員会）

## 1 懇談内容

### (1) 町会連合会

- 人口120人の町会から1,800人の町会がある。小さな町会だと毎年役が回ってきて困る。大きな町会だと若い人も増えてはいるが、あまり町会に興味がなく逆に役員の担い手に困るという状況が出てきている。
- もともと里山辺は、お舟祭りや御柱祭りで地区の絆は固かったはずだが、新しい方々が沢山入ってくることによって難しい部分が出てきている。
- 16町会が気持ちを合わせながら、まちづくり、絆づくりをしていきたいと考えている。
- ふれあい会食会等の事業は65歳以上、一人暮らし等が規定されているが、今は勤めに出ている方がかなりおり、配食も不在が多く課題になっている。70歳以上にするなど年齢の引き上げの要望も出ている。敬老会も人数が増えており、年齢の検討が必要と考えている。
- 新しい公民館、非常に使い勝手が良く好評である。ただ、夜の会議を終えると駐車場が真っ暗な状態であった。生涯学習課に相談すると、すぐに対応していただいた。新しい松本市のレスポンスの速さ、前の松本市との違いを見せてもらった。公民館で色々な活動をする中で、問題点も出てきた。多くの方が使うと慢性的な駐車場不足となっている。使いやすい公民館として繋がりを良くしていきたい。



### <市長>

35地区で課題解決していく意欲と経験のある職員に担ってもらおうということが私の課題だと思っていた。住民の皆さんが感じたことをしっかり関係部署に伝えて実現していく、出来ないこともあるが、少なくとも伝わっている、届いているということをこれから更にやっていかないといけない。

駐車場の問題は、利用が増えれば増えるほどジレンマとなる。何か良い方法を皆さんと考えられたらと思う。

町会の問題は、どの地区にもあり問題になっている。働いている若い世代が参加できる環境をどう作っていくかにかかっている。働いていても町会長ができるようにするため、開催時間、オンライン、情報共有という部分で若い人にとって効率よくできるところを整えていく。働き盛りの人に地域づくりに参加していただけるように松本市として重要な問題としてサポートしなければ持続可能なまちづくりにならないと思っている。

## (2) まちづくり協議会

- コロナ禍でまちづくり協議会の目玉である「まちづくりトーク」など、活動ができない状態に追い込まれている。皆で何とか知恵を絞って活発化させたい。  
あいさつ運動は、保育園、小中学校にも絵や標語などご協力をいただき、「あいさつカレンダー」を作っている。皆に使っていただける工夫をしながら、あいさつ運動を進めていきたい。

## (3) さとのわファーム、わいわいカレー

- 地域住民の方に支えられて野菜を作ったり青空の下で食べたりするのがとても良い。小学校の校長先生が畑でギターを弾いたりして、コロナ禍で担任の先生との交流もままならない中、近くに感じられ良かった。市長も…。  
参加した末っ子も（自分より）下の子もいて、お兄さんになれて良かった。普段できないことを体験させてもらっていて、感謝している。
- この活動を通して幅広い年代の方や職種の方とお話をする機会が持てました。地域と繋がるという意味でも、私達のような移住者にとって良いきっかけとなる活動。周りに知っている顔の方が増えるということは、住むうえで心強いものだと感じた。

### <市長>

里山辺というこの地域にふさわしい取組が続けられ、新しい方々がこの地域に溶け込んでいくのに大きな力になっていると感じた。遊休農地の活用としてプラスの発想で考え取り組んでいる事、食と農と大きく離れずに子供達に体験させることは、リーズナブルで意義の大きな取組みだと感じた。



若い方、移住者の参加は、とっかかりとして子供達が楽しめる場所に参加していただくのが良いと思う。町会への参加に繋がっていく取組みだと感じた。

あいさつカレンダーも1年を通じて使ってもらえるよう工夫されている。

コロナ禍での活動もこれまでに比べれば集まることも出来てくると思うので、これまでの取り組みを大きくして行っていただきたい。

#### (4) つながろう会

○ お散歩支援の一番のきっかけはコロナと、人と繋がる機会のない高齢者のフレイル。生活支援員に相談して始めた。みんなでおしゃべりしたり、外に出るきっかけができた。行政の隙間、いろんなサービスから漏れている人、地域で精一杯生きている方、これからどうしていけば良いかと常に思いながらやっていきたい。

○ つながろう会は、生活支援員の応援団として集まった会。

散歩支援を進めていく中で途中の休憩場所が必要という話になり、仲間で4時間かけて5基のベンチを作成した。ベンチは町会、県、市のご協力をいただき、散歩途中の神社や公園等に設置した。利用者からは立ち座りが楽になったと喜ばれている。今後は、このベンチを利用して、さらに多くの皆さんにホットできるような場所づくりとして、青空サロンの開設を考えている。地域の繋がり、助け合いの場になるように考えたい。

後継者が課題。

○ つながろう会の「つながろう」には、高齢者等の繋がりのほか、我々会員同士の繋がり二つの意味がある。元町会長や元民生委員が多いが、役職が終わればそれで終わりではなく、地域のために何かやりたいという方の意志もつながろう会が補足していると思っている。強制されてやっている会ではないので、自分たちでアイデアを出して楽しい会になっている。楽しく地域の繋がりを作っていくという意味で大事な会になっている。

ふれあい会食会もボランティアが手作りでご馳走を作ってもてなしていた。100人近くが参加していたが、コロナでできなくなってしまった。今年はモンゴルの馬頭琴の演奏を楽しんでいただき、簡単な昼食を持ち帰っていただいた。この回にもつながろう会で吊るし雛を作り、一人一人に差し上げ、喜ばれた。主催の社協だけではそこまで手が回らないので、つながろう会の活動が本当に助かっている。そして活動にはお金がかかるので、資金の援助をしていただけるとありがたい。

#### <市長より>

コロナが感染拡大しているときに出来た会。隙間を支えることが大切との話があった。公的だけではすくい取れない部分を支えていただいている皆さんに感謝と敬意を申し上げる。歩くことが年配の方にとって大きな意味と効果を持つことだと松本市でも介護になる前のフレイル予防に市立病院を中心に展開していこうと考えている。

ベンチの話は、実際にやったことの気づきから課題が見えて、それを自分達の手で改善・解決していくということで、頭の下がる思い。そういうことが関わっていて楽しいということに繋がるのかと思った。それを若い世代に接点を持ってもらえるようにすれば、市として橋渡しができれば。

(5) 山辺中学校

- 総合発表会に向けて準備を行っている。元々は地域の方も呼んで楽しめるイベントであったがコロナで制限され、規模も縮小された。今回は全校で集まらない。他校もオンラインでやるなどの話を聞いているが、他校の状況や取組みなどの情報を共有する時間をとっていただきたい。集まれなくてもリモートなどで機会を作っただけだと、文化祭以外でも生徒の刺激になるので、検討していただきたい。

- 山辺中からセブンイレブンまでの道が狭く危険だと感じる。



- 休校時に一人一台のタブレットでリモート学習が出来るよう、使えるようにしてもらいたい。
- 中学生が勉強する場所が無いと感じる。無料の学習スペースが学区内にほしい。
- 山辺中学では、地域のブドウ栽培のお手伝いをしている。地域の方に山辺の良いところを教えてもらっている。

- ドリーム大学は平成13年開学し、今年で22年目。今年のテーマは「輝道(きどう)」13学科で活動。ぶどう栽培学科では、ブドウの歴史を学んだり作業を行いブドウについて学んでいる。今は、地域受講生や地域の方と一緒に活動出来ずに残念。ドリーム大学は山辺中にしかないすばらしい伝統なので、繋いでいきたい。

- ドリーム大学は地域の方と関われる活動であるが、今は地域の方との関わりが少ないので、もっと関われる場を作してほしい。

<市長より>

逆に今であれば、ZOOMなどのオンラインコミュニケーションなどの手段ができた。是非これは、伊佐治教育長にそれぞれの学校の校長先生に話をしてもらって調整して1回やってみようということは十分に可能だと思う。できるだけ早い時期にできるように私なりに動こうと思う。

タブレット端末は、持ち帰れる学校もある。家庭でのWifi環境などの整備も行った。学校により懸念もあるかもしれないが、中学生は使い倒せるようになったほうが良いと思うので、教育長とも話をしようと思う。

道路の問題は住んでいる人もいるので、なかなか調整が進まない。里山辺では外環道を計画している。時間はかかるが、見ていてほしい。そのうえで感じたことがあれば、声を上げて頂きたい。

友達と勉強する場所は、街中にもあまりない。地域の実情に応じて作っていかないといけないと思う。公民館がその役割を担えたら良いと思う。お年寄りも皆さんの顔を見るだけで元気になる。少し話ができるだけでうれしくなると思う。公民館長、センター長、多世代の交流の場として工夫していただきたい。必要な

ことがあれ松本市として考えたいと思う。

ドリーム大学は、松本市全体に広めたいと思った。学校の先生意外に色々な話を聞いて、学びをすることは重要なことだと皆思っている。松本市全域に広げるためにドリーム大学の元祖として、山辺中の皆さんに力を貸してもらおうこともあるかも知れない。

## (6) 地域自治支援交付金交付団体

### 【湯ノ原交流会】

- シニア向けネット学習をしている。高齢になりPCも使えなくなり、コロナもありどんどん孤独、引きこもりになるという深刻な問題がある。

現在のネット社会に参加できるかどうかの問題となる。そのため、PCに代わるものを作った。お年寄りが気楽にネットを使えるような社会を作りたい。

### 【里山辺ゲートボール協会】

- 地域活動に無関心、煩わしい、関わりたくない。という人が多いということに気が付いた。福祉ひろばや公民館などを利用する仲間をどんどん増やしたいと考えている。健康体力の維持、地域の皆さんとの交流・親睦は当協会の目的に入っている。

ドリーム大学のゲートボール学科への参加、初心者スクールの開講などを企画し、現在進行中。



### 【北小松防災力向上委員会】

- 近年、各地で災害が多発、これまで以上に町会での防災力向上が必要。  
災害の弱者は、情報の弱者であると捉えている。昨年度から、松本大学、シルバー人材センターと連携して取組みを始めた。
- 自助、共助、公助と言われるが、自助と共助の間に「近助（近所）」が存在するのではと考えこれが隣組、北小松では「班」にあたる。
- （災害時に）状況を把握してもそれを報告する手段が電話しかないという状況。これをスマートフォンによりLINEを活用した安否確認、情報発信で情報収集をすることとした。LINE公式アカウントをとりこのあいだ作成したところ。これに町会のホームページも入れていきたい。
- ハードは出来ても大切なのは組織体制と高齢者への使い方周知。まずは隣組単位から3か年計画で進める。
- この活動が町会から地区、そして他の地区へと広がれば松本市全体の防災力向上に繋がるのではないか。

### <市長より>

お年寄りが誰でもインターネットに繋がることは、若い人以上にインターネットの力が支えになると常々思っていた。ただ、現実的に進んでこなかったのも事

実。どうやって、気楽に、手軽に繋がってもらえるか。滝沢さんの独自の端末もそうであるが、市としてもきめ細かなサポートを地区ごとに展開いただけるような政策を推し進めないといけないと思っている。

北小松の取組みもよりきめ細かく小さな地域ごとの情報共有は、テレビやラジオではできないこと。LINEアカウントなどの便利なものをどう使いこなすかが重要になってきている。北小松の取組みはスピード感を持って取り組んでいただいていると再認識させていただいた。松本市全体の地区で作っていただけるような形に持っていきたい。

ゲートボールは、健康寿命を延ばす、フレイルな状態を健常な状態に戻す。自分にとっての生涯スポーツを一人ひとりが持てる環境を作ってもらい、松本市としても後押しをしていきたい。

#### 《全体のまとめ(市長)》

あらためて里山辺が恵まれた自然環境と、街中との距離感が生み出してきた歴史や文化といった里山辺ならではの取組みがこれまで皆さんの力で行われてきたことを確認することができた。

そのうえで、多世代が一緒になってこれまで以上にやっていくこと、出来るようにするために新たな取組みをしていく重要性を感じた。そのためにこの新しい館で今までの取組みを続けながら、中学生が集い、学ぶ場としても利用できるようなことを是非取り組んでいただきたい。それが、活動の幅や勢いや、将来の担い手の確保にもなってくるのではないかと思う。

今日いただいたご要望やご意見はセンター長と連携を取りながら取り組んでいきたいと思っておりますし、また、里山辺ではこんなことをやっているということを松本市全体に広めるようにしてもらいたい。

